
■ 障害者等用駐車スペースの“適正利用”を実現する次世代運営モデル ～アプリ×ハードで現場課題を解決する 「VEEMO Welfare(ビーモ ウェルフェア)」

VEEMO 株式会社 代表取締役 米山 玲男

1. 障害者等用駐車スペースを取り巻く社会的環境

商業施設、空港、病院など、多くの駐車場において「障害者等用駐車スペース」の設置が進んでいます。

一方で、本来の利用対象ではない健常者による不適切利用は、長年にわたる課題となっています。

JAFが実施したアンケートでは、利用者の約7割が「不適切利用と思われる体験がある」と回答しており、この問題は個別施設の努力だけでは解決が難しい社会課題として顕在化しています。(2022年04月28日JAF『「思いやり駐車場」に関するアンケート』より引用)

そのような中、令和5年3月に国土交通省により「車椅子利用者用駐車施設等の適正利用に関するガイドライン」が制定されました。さらに令和6年4月には「障害者差別解消法」が改正され、事業者による障害のある方への合理的配慮の提供が義務化されています。

これにより、駐車場においても「障害者等用駐車スペースの不適切利用防止に向けた合理的配慮」が求められるようになり、事業者として具体的な対策が必要な状況となっています。

2. 現行対策の限界 — カラーコーン×人力運用の課題

多くの駐車場では、カラーコーンによる簡易対策や、警備員による声掛けといった方法が取られています。しかし、これらの対策には大きな課題があります。

カラーコーンを用いた対策では、車椅子利用者の方が駐車する際に、一度車を降りてコーンを移動させる必要があり、「第二のバリア」とも呼ばれています。また、健常者と思われる方への警備員による声掛けは、クレームにつながるリスクがあるほか、人手不足や人件費の高騰により、継続的な運用が難しくなっています。



そのような中で、現在求められているサービスは、以下の3点を満たすものです。

- ① 障害者手帳の有無を確認できること
- ② 物理的に車室をブロックできること
- ③ 利用者自身で完結できること

3. VEEMO Welfareについて

「VEEMO Welfare(ビーモ ウェルフェア)」は、アプリ × ハード × デジタル障害者手帳を組み合わせて、障害者等用駐車スペースの不適切利用を防止するサービスです。



【サービスの特徴】

① デジタル障害者手帳「ミライロID」との連携

ミライロIDと連携することで、障害者手帳を保有している方のみがアプリから機器を操作できます。登録済みユーザーのみが利用可能となるため、手帳の有無を自動的に確認できます。

② 車室を物理的にブロックし、不適切利用を防止

ハードによって車室を物理的に制御することで、健常者による「停めてしまう」行為を構造的に防止します。

③ アプリ完結型で、施設人員を必要としない運用

利用者自身がアプリから操作するため、現地での人員対応が不要となります。

④ 満空配信・予約機能による利便性向上

アプリから車室の満空状況を確認できるほか、予約・利用・決済までをアプリで完結することが可能です。

これらにより、適正利用の担保、運営負荷の削減、利用者満足度の向上を同時に実現する仕組みを構築しています。

【サービス展開イメージ】



4. サービス利用イメージ

【サービス利用までの流れ】

- ① VEEMOアプリをダウンロード
- ② ミライロIDを連携し、手帳の有無を確認
- ③ 対象車室へ向かい、アプリからスタンドを操作
- ④ 入庫から出庫まで、すべてアプリで完結



【アプリ操作イメージ】

- ① マップから利用する駐車場・車室を選択
- ② アプリからスタンドを倒す
- ③ 出庫時は操作不要で、自動的にスタンドが上昇



5. 導入事例について

■成田国際空港株式会社

【導入背景】

従来の障害者専用駐車スペースは予約ができず、現地に行かなければ空き状況が分からないという課題がありました。実際に、満車のため駐車できず、結果として飛行機に搭乗できなかったという深刻なケースも発生しています。

成田国際空港では、こうした状況を受け、多くの利用者から「安心して駐車できる環境を整えてほしい」という要望が寄せられており、その解決策として、2025年5月末より本サービスの導入を開始しました。

【解決した課題】

① 車外に出ずに入庫可能で、身体的負担を軽減

一般的な予約型カラーコーン設置方式では、車椅子利用者が自力でコーンを動かす必要がありました。本サービスでは、その手間を一切なくしています。



一般的な予約方式

一度、車を降りて動かす必要がある



VEEMO Welfare

車内から、アプリでスタンドを操作

② ミライロIDとの連携による手帳確認の自動化

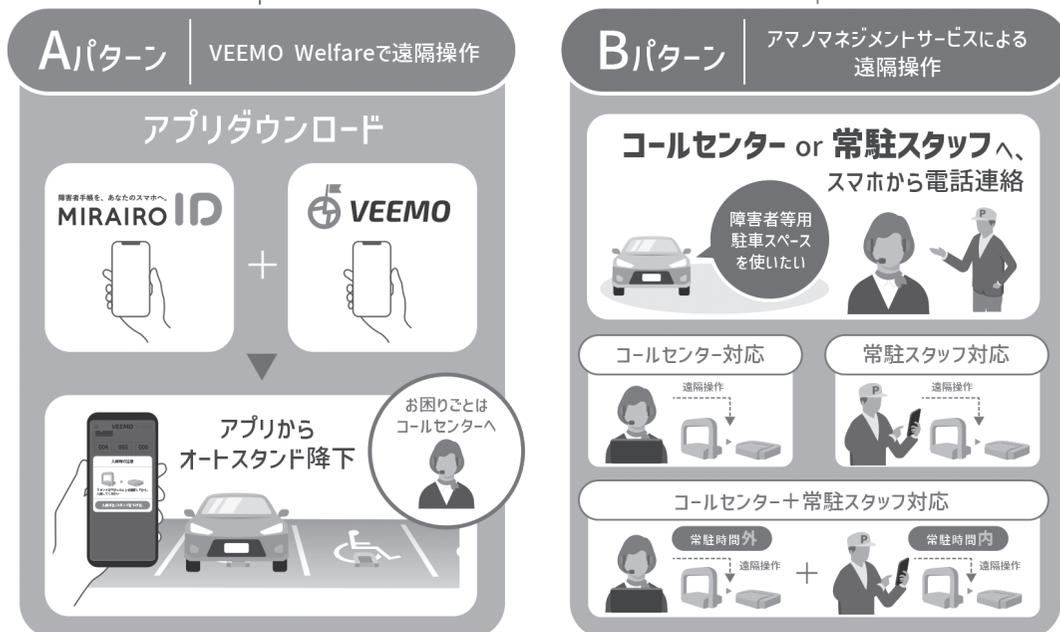
デジタル障害者手帳「ミライロID」と連携し、障害者手帳の有無を確認したうえで、予約・利用が可能となります。不適切利用を防ぎ、適正利用を実現しています。

■アマノマネジメントサービス株式会社「パーミット+（パーミットプラス）」

アマノマネジメントサービス株式会社では、「VEEMO Welfare」と同社のコールセンター機能を組み合わせた「パーミット+（パーミットプラス）」を展開しています。コールセンターを活用することで、一時的な怪我や妊娠中の方なども、電話連絡によりオペレーターが遠隔で機器を操作し、利用できる仕組みを構築しています。

パーミット+ (パーミットプラス)

Aパターン／Bパターン 単独サービス提供も可能
ABミックスで提供も可能



6. 今後の展望

障害者差別解消法の改正により、民間事業者における合理的配慮の提供が義務化されたことを受け、現在多くの事業者様よりお問い合わせをいただいております。全国展開を進めています。

また、兵庫県主催の「ひょうごTECHイノベーションプロジェクト」にも採択され、兵庫県内の公共施設において実証実験を実施しています。2026年度以降は、公共施設での普及もさらに強化していく予定です。

7. 最後に

障害者等用駐車スペースの運用に課題をお持ちの施設事業者様、駐車場事業者様がいらっしゃいましたら、ぜひお気軽にご連絡ください。本記事をご覧になった旨をお伝えいただければ、トライアルからの導入も可能です。

contact@veemo.jp

まで、お気軽にお問い合わせください。